

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800104		
法人名	社会福祉法人 幸友会		
事業所名	グループホームひより		
所在地	福岡県飯塚市上三緒1番地11		
自己評価作成日	平成23年7月22日	ユニット名	さくら

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月3日	評価結果確定日	平成23年10月11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、御家族様の意向を大切に、介護にあたっています。御家族の指導でしめ縄作りを行ったり、行事への参加、面会時の近況報告等により、御家族との交流の機会を作っています。敷地内の菜園で利用者様と一緒に無農薬野菜を作ったり、趣味活動の支援を行い、楽しく充実した毎日を送って頂けるように心掛けています。地域との交流としては、施設を災害時の避難場所として提供しています。また、町内会等を通じて、獅子舞の来演やAEDや認知症サポーターの講習会に参加していただき、交流を深めようとしています。施設構成としては、若いスタッフを主体としたスタッフ構成のもと、新しい考え方を取り入れながら、より活気ある施設作りを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型施設が併設の平屋建て2ユニットのグループホームである。小高い場所に位置し、敷地は広く菜園もあり、水害時には、地域の避難場所となっている。居間兼食堂は、会話が弾む賑わいの空間であり、併設施設利用者も含めた交流の場となっている。日常的に買物や、希望する場所へのお出掛け等、外出支援にも力が注がれている。ガス、水道、電気の使用量をグラフ化して利用者と共に記入し、視覚からエコ生活を楽しんでいる面も見られる。また認知症サポーター講座では、場所提供を行い、地域住民との有意義な交流が行われた。施設長は次世代の担い手として、人材育成に力を入れており、職員の働きやすい環境作りにも配慮がなされ、育児休暇、子育て中の勤務時間の配慮、定年後の継続雇用等、福利厚生の実が見られる。併せて、職員のスキルアップへの意欲も大切にされ、技能向上支援事業も活用しながら、積極的に外部研修への参加を支援している。より一層のサービスの質の向上、支援力の高まりが期待出来る、今後が楽しみな事業所である。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームと小規模多機能の理念を合わせたものを幸友会の理念にしている。それぞれの意味合いをスタッフは把握し、支援に繋げるように努めている。	「家庭的で尊厳ある生活」、「楽しみと安心な生活」、「地域社会とのつながり」を趣旨とする独自の理念を作成し、職員は、各々の立場で意味を考え、向き合えるよう、毎朝礼時に唱和し、共有と実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーに買い物に行ったり、外食に出掛けたりしている。また、利用者の馴染みのある場所に出掛けたり、保育園児を招いたり、積極的に地域に出掛けるように努めている。	近隣の保育園児との定期的交流を始め、地域の文化祭に、入居者の作品を出品したり、地域ボランティアが誕生日会等の行事で、フラダンスを披露する等、積極的に地域との交流を図っており、それが入居者の楽しみとなっている。また「認知症サポーター講座」への場所提供を契機に、入居者と地域住民が共に参加したことで、事業所への理解も得られ、更なる交流の足掛かりが芽生え始めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ひよりで、認知症サポーター講座の講習を行い、地域の方々や家族に参加していただき、理念を深めている。また、ボランティアや地域の行事を通じて、交流の機会を設けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひよりで、の行事や利用者の状況を話し合っている。地域の方と意見交換を行いながら、サービスの向上に努めている。	町内会長や、民生委員、婦人部長、包括支援センター職員、家族代表の参加で、定期的開催されている。内容は、状況報告にとどまらず、参加者との質疑応答、地域の人材活用についての提案等もあり、しめ縄作りは実践につながっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や書類の提出、包括支援センターからの利用者の紹介等、担当者との良好な関係性が出来ていると考えている。	市担当者や、地域包括センター職員とは、日常的に質問や相談が出来る良好な関係が築かれている。また事業所からの提案で、「認知症サポーター講座」を開催する等、地域作りの一役を担っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	これまで使用していなかった出入口を開放するようになった。散歩や外出等、外に出てストレスが発散できるような取り組みも考えている。マニュアルについても、定期的に施設内研修等を行っている。	職員は、身体拘束について、研修や会議を繰り返す中で、拘束の意味、弊害を考えながら、支援に努めている。また玄関以外の出入口の一部開放等、工夫・改善が見られる。	現状として、玄関の施錠は行われているが、リビングの窓を開放する等の取り組みがある。今後も、検討や工夫を重ねながら、見守り体制や外出支援も含めた検討や工夫を続けて欲しい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体状況を把握し、アザ等が見られた時は、どうしてアザができていたのか？検討し、虐待についても考えている。マニュアルもあり、施設内研修等を行っている。		

福岡県 グループホーム ひより

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を受けられている利用者がおられ、学ぶ事が出来ている。また、施設内研修等も行っている。	現在、成年後見制度利用者が1名いることもあり、職員は、制度の意義を実感し、理解を深めている。外部研修後には、伝達研修が行われ、職員間での情報の共有が図られている。玄関口には、手に取りやすいようパンフレットが備えられている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書や契約書内容を読み上げ、理解を得られるように分かりやすく説明している。契約後も不明な点があれば、その都度説明を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員や苦情処理機関、家族会により、直接スタッフに言えないような事も、それらの機関を通じて意見を反映させている。意見箱を設置しているが、今のところ投書はない。毎月、介護相談員が派遣されており、利用者の意見を聞いている。	家族会(年1回)の開催や、日頃の訪問時にコミュニケーションを取りながら、要望や意見の収集に努めている。出された意見については、会議で取り上げ、運営に反映させている。また毎月の介護相談員を活用し、入居者が意見を外部者へ表せる機会を設けている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフからの意見をスタッフ会議や各委員会等で意見を求め、検討している。又、定期的な上司との会議において、稟議書等を活用しながら提案しており、質の向上に努めている。	5つの委員会があり、各担当職員は、書面で意見を提出し、それが週1回の管理者と施設長の会議で検討・反映される仕組みとなっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加など、意欲のあるスタッフが向上心を持って仕事ができるよう配慮している。定年後も継続して仕事ができるよう配慮している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は、年齢や性別にとらわれずに行っている。スタッフに役割を持ってもらい、積極的に仕事ができるように配慮し、自発的な研修の参加など行っている。若い女性スタッフもあり、育児休暇から復帰したスタッフも数名いる。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除されることはない。育児休暇、定年後の継続雇用、子育て中の勤務時間の調整等、充実した福利厚生が見られる。併せて、有給休暇の取得や、研修参加の奨励等、働きやすい職場環境の整備もなされている。また職員の特技を生かした陶芸や掲示物が各所に確認出来る。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者を尊重して接する事が出来るように言葉遣いや記録の仕方についても常より話し合いを行っている。	職員間で、日々の仕事の中でお互いに話し合いながら、一人ひとりの尊厳を尊重するよう努めている。	

福岡県 グループホーム ひより

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会への参加を推奨している。自己の勉強でもあり、事業所の室の向上にもつながると考えている。スタッフ個々による努力や実績を助案しながら、外部研修へも参加を促している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流を行っている。文化展や勉強会にも参加させていただいている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の希望を確認し、ケアプランを作成している。初期については特に関わりを多く持ち、コミュニケーション形成に努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症や疾患等の症状を詳しく把握し、状態に合わせた支援が出来るように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を見極め、まず何を行うべきか、ケアマネだけでなく、スタッフの意見も尋ねながら支援を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事は何か？役割を探している。例えば、家事や園芸など、得意分野を活かせるように配慮している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族あつての本人であり、家族とのつながりを大切にしている。年4回の会報ひよりの発行や定期的な身体状態の連絡を行っている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚、近隣の方等の面会など家族の了解を得て実施している。また、馴染みのある場所への外出等、随時行っている。	入居者の知人が主催する催しに出掛けたり、市内の名所廻りを始め、買物等、馴染みの場所への外出を実施し、関係が途切れないよう努めている。	

福岡県 グループホーム ひより

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の共通点を見出しながら、様々な場面で関わり合えるように配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用(契約)終了後でも、入院先にお見舞いに行ったり、家族と連絡し、経過をフォロー出来るように心掛けている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様々な利用者がおられ、その置かれている環境に合った支援を行っている。アセスメントでは知り得なかった情報等をスタッフ間で共有できるように記録に残していくようにしている。	アセスメントは、随時実施し、生活歴等も含め、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。全員参加の会議では、日々の暮らしの中から、職員が把握したことを出し合い、情報の共有化を図っている。	入居者一人ひとりの思いを、より把握・共有する観点から、追加情報や状態変化について、介護計画に効果的に活用出来る記録方法の工夫を期待したい。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	あ		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存能力、得意分野を把握し、それらを自分の為だけでなく、人の為にも行っていただく事で、達成感や充実感を得られるように努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と情報を交換しながら、一日一日を良い日にする為に話しあっている。	介護計画作成の為の担当者会議に利用者、家族の参加は得られていないが、事前に電話や面接で意向等の把握を行っている。また3ヶ月ごとのモニタリングや、全職員が参加する月例会議で出された意見を計画に反映させ、より現状に即した計画作りに努めている。	アセスメントや、経過記録、各会議が、介護計画に効果的に反映されているとは言い難い。より本人本位の観点から、共有しやすく、目標の達成状態が分かり易い具体性のある計画作りを期待したい。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何が普通で何が特変なのか、記録の勉強会を行い、それらを共有する事で良い介護が出来るようになる。		

福岡県 グループホーム ひより

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時は家族に代わり、入退院の対応を行ったり、家族に代わり病院受診を行い、家族との関係性を大切にしている。また、利用者の急な外出等の要望も出来るだけ対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々に慰問に来ていただき、交流を行っている。柔軟なボランティアの受入れ等を行いながら、閉塞された場所にならないように努めている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はあるが、他にも専門医やこれまでのかかりつけ医も尊重しながら、各医療機関との連携を行っている。	かかりつけ医については、本人の希望を尊重しており、家族と連携を取りながら、適切な医療が受けられるよう支援をしている。また協力医療機関の往診も週1回実施されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタル測定を行いながら、変化が見られれば看護師に報告し、速やかに対策を行っている。情報交換を行いながら、利用者の健康維持に努める。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に働き掛け、状況把握に努める。面会に行ったり、家族や医師と連絡を取り合い、退院に向けた話し合いを行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に、重度化した時等の対応方針を説明している。今後においては、マニュアル等の完備、本人や家族に意向の確認を行っていくよう検討している。	入居時に、重度化した場合の方針や対応を説明し、同意を得ている。看取りの事例はないものの、看取り経験のある職員の存在や、新たに看護師を採用する等、現在、体制づくりに努めている。今後、研修の実施や、本人、家族、医療関係者と連携を深めながら、前向きに取り組む意向がある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを確認している。又、AEDや心肺蘇生法の講習を受けたり、急変が起こった後には、もう一度どのような対応が良かったのかを検証している。		

福岡県 グループホーム ひより

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の訓練のほか、地域との協力体制も確立できるように努めている。近隣のトライアルや地域住民の方々にも推進会議や他交流の場において、ひよりの災害に対する対策を伝えている。	年2回、定期的な避難訓練を実施している。運営推進会議後に実施され、家族や地域包括支援センター職員の参加・見学を得ている。消防署主催の講習会にも参加し、火災時には、町内会と地域の消防団との協力体制が構築されている。また水害時には、地域の高齢者の避難先を引き受ける等の役割を担っている。現在、近隣のディスカウントショップへも協力依頼を行う等、積極的に地域に働き掛けを行っている。	
<b>、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努めて行っている。利用者一人一人に合った、尊厳ある言葉かけを行い、スタッフ同士にも常に注意し合えるような環境であると思われる。	言葉かけについては、本人の生活歴等を配慮しながら、「一人ひとりの人格を尊重したものになっているか」、常に職員間で話し合いながら行っている。また個人記録の事務処理時についても、細心の注意を払うよう努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、行事への参加においても、無理強いするのではなく、今、自分のしたい事ができるような場であるように努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールはあるものの、散歩や外出、買い物や入浴等、柔軟に対応できるように努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品やおしゃれ等、女性は女性らしく、男性は男性らしく暮らせるように配慮している。2ヶ月に一度、出張カットが来ており、パーマやヘアカラー等、思い思いの髪型を楽しまれている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を取り入れて献立を作成している。漬け物作りや野菜作り等、利用者に率先して参加していただいている。食事の片づけにも数名ではあるが、自分の役割として積極的に行っていただいている。	平日は調理員が作るが、土日は職員が作るため、入居者は食材の買出しに同行し、出来る範囲での役割を担っている。ある時は、利用者宅の梅ちぎりを行い、梅干作りに挑戦したり、誕生日会(2ヶ月に1回)では、行事食を提供する等、食が楽しみとなるような工夫を行っている。また軟飯、刻み食等一人ひとりの状態に合った支援もなされている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算までは出来ていないが、疾患に合わせて食事量や塩分調整、食事形態等を出来る限り行っている。食事量、水分量は毎食時チェック表に記入しており、体重測定も毎月実施している。		

福岡県 グループホーム ひより

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを全員実施している。肺炎予防にも努めている。出来るだけ自分で行っていただき、状態に合わせた支援を実施している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけることにより、量・パターン・失禁の有無等を把握出来ている。本人の訴えも尊重しながら支援し、オムツを使用しなくても良いケアを行って行きたい。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員の声かけ・トイレ誘導により日中のオムツ使用者はいない。夜間、2名のみ利用となっている。布パンツ、リハパンツ、尿取りパッド等を使い分けながら、自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖やきな粉牛乳、腹部マッサージ等を組み合わせている。又、食物繊維のある献立を提供している。便秘症の方には、医師の指示による緩下剤を合わせて服薬していただいている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	タイミングは合わせるように努めているが、曜日については、施設サイドである事が多い。失禁時等はシャワー浴や個浴で対応している。個浴があるので、入浴日以外でも数人ずつ入浴を施行する事もある。	広い浴室に大浴槽1箇所、個浴槽2箇所設置され、身体機能に合わせた支援が行われている。入居者の意見を踏まえ、順番も配慮したり、ラジカセを持ち込み、音楽を流す等、入浴がゆったりと楽しみの場となるよう努めている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休息したり、対応は柔軟に行っている。就寝時間は決めているが、希望に合わせて行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントを作成しており、薬についても周知出来るように努めている。疾患や薬の用途、副作用を知り、薬の重要性を認識する事で利用者の状態や変化に気づけるように勉強している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の継続と活性化に向けて支援を行っている。利用者全員に対して、支援できるように努力は必要である。		



福岡県 グループホーム ひより

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>行事だけでなく、個人の馴染みのある場所へ出来るだけ行くようにしている。ドライブや散歩に行き、ストレスを解消出来たり、不穏を緩和できるように配慮している。</p>	<p>一人ひとりの希望にそって、日常的に散歩や、近隣のスーパーへの食材等の買物、ドライブ、また菊花展等の地域の催しに出掛けている。入居者からも、積極的に希望が出ている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>数名の方は少額ではあるが持たれている。持たれていない方は、立替と言う形ではあるが、好きなものを購入できるよう家族とも話している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>基本的にはスタッフが取り次いで電話を行っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎月、季節感ある壁画等を利用者と一緒で作成している。献立にも旬の物を取り入れながら、対応している。</p>	<p>共有となっている居間兼食堂は、明るく、広々とした空間が確保され、格好の交流の場となっている。各テーブルには、入居者の手により、季節の花が飾られている。壁には、入居者と職員が季節ごとに作る作品が飾られ、暮らしに彩を与えている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>出来るだけ一人で過ごす事のないように話している。ホールにリビングスペースを設け、リラックスできて利用者同士が交流出来ているのでは、と考えている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>小さなタンス等の持参や飾りや花などを持ちこまれ工夫されている。できる限り制限は行っていない。</p>	<p>介護用ベッド、クローゼットが予め備えられている他は、各自が使いなれた物や、好みの物を持ち込んでいることが確認出来る。各室には写真や絵、折り紙・手芸の作品等が飾られ、居心地良く暮らせるよう努めていることがうかがえる。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人一人の能力を活かす事が出来るような環境作りに努めている。歩行状態やADLに合わせた席の配置をし、転倒の予防に努める。</p>		